

今週のメニュー

■トピックス

- ◇持続都市建築システムコロキウム
－九州大学大学院人間環境学府で講義－

■随想

- ◇インドでの塩ビ管紹介と街並み散歩（その2）
－ホテル周辺とインド人の気質－

塩化ビニル管・継手協会 石崎 光一

■編集後記

■トピックス

- ◇持続都市建築システムコロキウム
－九州大学大学院人間環境学府で講義－

霧島温泉地で火山性ガスでの暴露実験を共同研究している九州大学大学院小山准教授からのお誘いで、大学院講義「持続都市建築システムコロキウム」に非常勤講師の委嘱を受けて、九州大学箱崎キャンパスの建築棟で、6月20日に40数名の院生に90分講義を行いました。

この「持続都市建築システムコロキウム」は、大学院生のキャリアパス授業であり、都市・建築分野を中心に、持続可能性の向上や環境共生、資源循環といった分野で活躍する産業人・実務者とのディスカッションを通じ、最新の産業ニーズ、21世紀の高度専門職業人に求められる専門性やスキル等を学ぶことを目的としてスタートしたカリキュラムと聞いています。コロキウムは、インフォーマルな雰囲気の中で率直に思ったことをとことん話し合う集まりの意味です。

毎回、サステイナブル建築の設計、建設、コンサルティング、エネルギー関連事業等、業界の最前線で活躍する経営者、実務者を講師として招き、講師のプレゼンテーションとそれに関するディスカッションを行い、最終回には学生によるディスカッションを行って、持続都市建築システムの実現に向けた課題や戦略等について学生間で相互に理解を深めるとのこと。

私に白羽の矢が立った理由は、建築分野を中心とする人間環境学府の大学院生にとって身近にありながら馴染みの薄いプラスチックを取り上げて、都市建築との関わりを理解させたいとの意向があり、その専門家に選ばれたものと思われまます。プラスチックの専門家としてはまだまだと感じていますが、日頃から中学校や高校・大学で身近な事例をもとに話しをしていたことから、出来るだけ、専門性よりも分かりやすい内容にすることと、土木・建築分野で使われる塩ビでの知見を活かそうと考えて講義を組み立てました。



そこで、講義テーマは「プラスチックと建築、環境との関わり」として、プラスチックの歴史、資源との関わり、種類と構造から起因する特性、土木・建築分野での使用事例、リサイクルの現状と課題について説明することにしました。

はじめに小山先生から講師紹介があり、新鮮な若い学生との出会いを楽しみながら、プラスチック全般の特性とそれぞれの建築分野での活用事例、コンクリートなどの構造材との違い、省エネ・断熱との関わり、建築廃材のリサイクルの課題などにも言及し、今後のプラスチックの活用の可能性などについて講義を行いました。

講義の後に、熱心な学生からふたつの質問を受けました。ひとつは、プラスチックの資源である石油が無くなったらどうして行くのか？ 二つ目は、プラスチックは環境によって劣化していくが、今後どうして行くのか？前者は、石油以外にも、シェールガス由来の原料もあり、バイオ由来の原料の可能性もあること。また、リサイクルも重要なテーマであること。後者は、素材の組み合わせで耐久性を向上出来ること。また、一定寿命で交換していくことを前提に使用することも必要であると答えています。プラスチックに関心を持って質問されたことが講師としての何よりの嬉しさです。

最後に、身の回りにあるプラスチックを建築や環境の視点で確かめて、現場の経験や感触を大切に、今後の研究に活かして欲しいとして締めくくりました。

これからを担う若い世代に、これまでの経験や知識を伝える良い機会を頂いたことに感謝しています。このような活動が、これからの日本のものづくりを継承し育てて行く土台になると信じています。関係者の皆さん、継続こそ力です。頑張ってください。



講義の様子

■ 随想

◇インドでの塩ビ管紹介と街並み散歩（その2）

－ホテル周辺とインド人の気質－

塩化ビニル管・継手協会 石崎 光一

明けて翌朝4月10日の朝食は、当然安全なホテルの中ですが、ひょっとしてカレーばかりでは・・・と心配です。カレーは嫌いではないのですが、毎日カレーでは胃が持ちません。行ってみると、普通の一流ホテルの朝食といった感じで、いろいろあります。ただし、さすがにジュースやサラダは問題ありか(生水を使っている)と思い我慢して手を出しません。皆さん気にせずこれらに手を出しているのですが、ひたすら我慢です。それでとってきたメニューは写真のとおりです。ただし飲み物は、なんと「ヤクルト」が置いてあり、「これは大丈夫だろう」としっかりゲットです。



朝食メニュー

今日はプレゼンテーションの準備もあり、一日部屋に閉じこもっていたので、夕方5時過ぎの「仕事が終わって家路を急ぐ街の生活」を探索することとしました。といってもホテルの回りをちょっと散歩するだけです。

ハイソなホテルから一步外気にふれた途端、雰囲気は一変して別世界です。車の行きかう通りは、鶏の糞のようなおいと粉塵が舞い、両側にはいろいろな食材の店(バラックとしか思えない)があります。果物屋さん・生きたニワトリとさばいたその肉屋さん・そこに寝そべっている主人、元気な子供たち・・・構えて写真をとっていたら襲われるような恐怖心があり、歩きながら胸のあたりからシャッターをひたすら押し続けました。



ホテル周辺の様子

インドの実態を垣間見た感じで、まだまだ貧富の差が激しいということを実感しました。出発前に、「ホテルの前をうろうろ散歩するのは危険だから止めた方がいい」との忠告があったのですが、だったら是非見てみたいとの好奇心で歩いてみました。でも、皆さんにはやはりお勧めしませんね。

さて、前日の「発表者が集まったのディナー」を皮切りに、いよいよ Vinyl India(3rd International PVC & Chlor-Alkali Conference)の始まりです。セレモニーは仲間内でこの業界の知っている人同士の再会を祝して、アルコール(メインはワイン)を飲み交わすのが通例で、当然知っている人のいない当方にとって心細い限りでしたが、心配も杞憂で皆さん社交的な人が多く、結構声をかけてきます。「塩ビ管は日本ではポピュラーか?」、「C-PVCについて興味ある」、「インドに進出している日本の塩ビ管メーカーはあるか?」、「製品は別としてシステムについての支援を期待したい」といった、社交辞令か本気か?とにかく結構興味を持って迎えてもらいました。



会議も2日目に入り、Lunchも済めばいよいよ当方の出番です。Lunchはカレーしかないのかと思いきや、確かにナンやタイムシとカレーのセットが主体ではあるが、肉入りシチュー・野菜炒め等、味もそんなに辛くなく、つい食べ過ぎてしまうほどですが、さすがに今日だけはLunchも控えめに、会場を確かめます。ひな壇に自分の名前を書いた名札も確認し緊張感がさらに高まります。

Lunchのカレーと野菜炒め



プレゼンテーションが終わったところ

なんとかプレゼンテーションが終わり Q&A も終わったら、主催者側から記念の盾をもらいました。

会議の内容は、メルマガの[トピックス](#)に譲るとして、会議の進め方で印象的だったのは、当初のプログラムに対して、大体speakerは持ち時間をオーバーして熱く話します。よく、「インド人にはマイクを持たせるな」と言われるそうですが、まさに、主催者側からの時間厳守の思いは全くなく、かなり時間にルーズですね。さらにはCoffee Break後の会議再開についても、時間になったら開始を「木琴をたたきながら」ふれまわりますが、皆さんまったく意に介してないですね。このペースにはちょっとついていけない感じです。

(つづく)

次回は、(その3) -インド門にて- (終) です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 編集後記

インドのカレーの話が随想に出てきましたが、この茅場町周辺にはインドカレーのお店が多くあります。中には、どう見てもかつて居酒屋風のお店としか見えないところですが、それらしい飾り物を置いたり、店内のテレビにダンス交じりの映像を流すことで“インドらしさ”が演出されています。当初食べたころの辛さは最近感じられなくなったような気がします。この暑い時期、香辛料の効いたカレーと大きなナンを食べ、随想で紹介されたムンバイの雰囲気味わってみたくなりました。(HI)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp